

第3回地域デザイン会議（学生G） 会議録

日時

令和2年10月16日（金）10:00 ～ 12:00

場所

新長田合同庁舎（神戸県民センター） D、E、F会議室

内容

意見交換（ワークショップ形式）

【テーマ】

神戸の都会的な魅力、自然環境がもつ魅力は何か？

また、その魅力を活かして、30年後の神戸はどうあって欲しいと思うか？

出席者

別紙のとおり

第1回デザイン会議の共通意見の一つとして、「神戸の良いところは自然と都会、両方あること」という意見があった。そこで、「神戸の都会的な魅力、自然環境がもつ魅力は何か。また、その魅力を活かして、30年後の神戸はどうあって欲しいと思うか。」をテーマにワークショップ形式で意見交換を行った。

当日は2班に分かれ、事前に調べた情報や考えた内容を持ち寄って、話し合いを行い、神戸の将来像を模造紙1枚にまとめ、発表した。以下、発表内容となる。

【1班】

図1. 意見出し（前半）ホワイトボード

〇 都会的
 中央区
 〇 西・北区のキャンパス
 ↳ 交通アクセス
 ↳ 山のむこうに行きにくい
 ↳ 異文化ととらわれない
 ↳ 夜景
 ↳ 山があるから都市が映える
 ↳ 異文化
 ↳ 洋菓子
 ↳ 三宮周辺にまよってる
 ↳ 神戸市
 ↳ 知らない欲度2位
 ↳ 人口減少している
 ↳ 交通アクセス
 ↳ 全国へ行ける(空港)
 ↳ 閑空も近い
 ↳ 船
 ↳ 中心地から近い
 ↳ 都会と山が近い
 ↳ アクセスが悪い
 ↳ 〇 自然環境
 ↳ 愛の里山公園
 ↳ ぶどう狩りなどができる
 ↳ 六甲山脈
 ↳ 六甲牧場
 ↳ 山上公園(桜がきれい)
 ↳ ハイキングコース
 ↳ 布引の滝
 ↳ 有馬温泉
 ↳ 東遊園地
 ↳ 〇 北区・西区の自然と
 ↳ いかに

図2. 意見出し（後半）ホワイトボード

〇 神戸の30年後
 ↳ 住んでいる人には可憎しやすい
 ↳ 家族で住みやすい
 ↳ 魅力をみんなが知って就職後にもどきにくくなる町
 ↳ 外で安心して遊べる施設
 ↳ 高齢化・コロナ
 ↳ 神戸とはこれ! とつくる
 ↳ 交通アクセス → するための準備
 ↳ 住んでいる人が好きと言える町
 ↳ 若い人が参加できる町づくり
 ↳ 地域コミュニティをつくる
 ↳ 家族で観光できる
 ↳ 2=バーサティデザイン
 ↳ イメージと実際のキャンパス
 ↳ 魅力を住んでいる人が理解していない
 ↳ 住んでいる人に観光してもらう
 ↳ 文化をつないでいく人
 ↳ 自然・都会をいかして
 ↳ 〇 住みやすいまち
 ↳ 高齢者にやさしい
 ↳ 子育て
 ↳ 交通アクセス
 ↳ 2=バーサティデザイン
 ↳ 地域の人により決める
 ↳ 三世帯で住める
 ↳ 病院
 ↳ 治療

(1班-Aさん)

こちらのホワイトボードが都会的な魅力と自然環境の魅力で、最終30年後どうありたいかをまとめた。

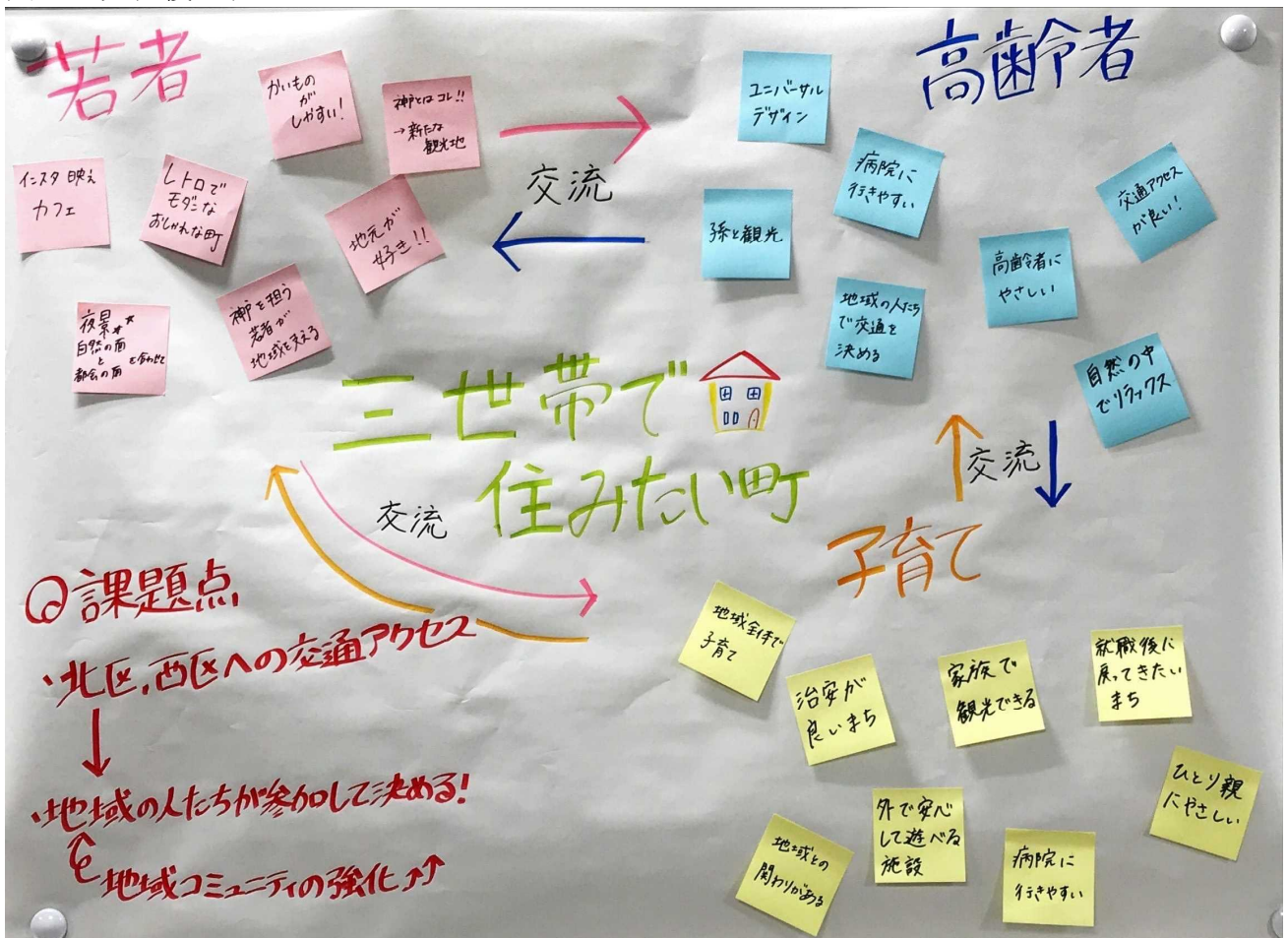
僕らのテーマとしては、3世帯で住みたい町。なぜかという、まず都会的な魅力と自然環境の魅力を挙げたときに、建物、異人館や南京町。異国情緒、都会はビルがたくさんあるなどの共通意見が出た。また、山があって都市が見える。山があるから、夜景も楽しむことができる。自然環境の魅力は、三ノ宮周辺に自然が多いかと言われたら、結構見えるだけのものになってしまっているの、それをどうするか。その時に北区・西区という魅力が出てきた。今回調べてみたら、様々な施設があることが分かった。

神戸に住んでいても、初めて知ることがある。施設を作っているのに、アクセスの面もあり、北区や西区へ行きにくいのかなと思った。

都会の魅力は、今あるものをより良くしていきたいが、自然関係の魅力をもっと磨いていけないといけない。自然をどうやって生かしていくかを考えたときに、地域をもっと盛り上げていけないといけないと考えた。まずは神戸の人達が神戸のこと好きになって、北区や西区の人でも北区や西区のことが好きになって、もっとこの町に住みたいとなったらいいと思う。

この「三世帯で住みたい町」ということで、地域を自分たちで盛り上げていくために、若者、高齢者、子育ての三つの側面からまとめた。

図3. 発表模造紙



(1班-Bさん)

まず、若者についてである。若者から見る神戸の魅力の中でも、30年後に残していきたいと思っている魅力から発表する。

今は、神戸元町エリアにカフェが増えていて、インスタ映えをするカフェもあるので、例えば大阪からカフェのために来てくれている人もいる。東京や大阪では、感じる事ができない旧居留地などの開港の際に外国人居留地として発展した地域がレトロでオシャレな町として残っているので、しっかり残していきたい。また、三宮のセンター街などで買い物がしやすい。

夜景は、日本三大夜景にもなっている。掬星台に登ると、山があるから上に登れて、都会があるから輝いている町を見ることができるといことも残していきたい魅力だと思う。

(1班-Cさん)

次は、高齢者についてである。神戸も少子高齢化が進んでいるので、高齢者の方たちが住みたいと思うような町にしていくにはどうすればいいかということで、このような意見が出た。病院に行きやすいこと、医療受けやすい環境を作っていくこと、孫と一緒に観光ができること。そして、コロナの影響やインターネットが普及している中で、地域の人との交流が少なくなってきた。

そのため、これからそれをより柔軟にして、地域の人達で交流する機会や交通を決めていくことが大切だと思う。交通アクセスをただ単に良くするだけではなく、JR灘駅などのユニバーサルデザインを進めていくことが必要だと思う。ただ単に交通アクセスを良くするだけでは、多大な費用もかかってしまう。

高齢者も大切だが、高齢者以外の誰にでも使いやすいユニバーサルデザインを、これから神戸に広げていくことが大切ではないかと考えた。

(1班-Dさん)

次に子育ての面で、30年後に引継ぎたいところと、30年後にはこうなってほしいということをお話したい。

まず考えたのが、就職後に戻ってきたい町ということ。やっぱり就職すると、大阪などに出て行ってしまふことが多い。しかし、神戸の魅力を知っていたら、就職した後に、あの町良かったな、戻りたいなと思って戻ってくると思う。戻ってきたときに、神戸で子供を育てたいと思える町にしたいという意見が出た。

子育てという面で、家族で観光ができたり、治安が良い町、交通アクセスが良くて病院に行きやすいこと。また、ひとり親に優しい町が良い。あとは、地域全体で、子育てができるような地域にしたいという意見が出た。

(1班-Eさん)

最後に、具体的な課題点と解決の方法を提案したい。

神戸が住みやすい町かどうかというと、東から西への交通アクセスはすごく充実しているが、北から南のアクセスがなかなか難しい。北区、西区への交通アクセスが難しいという課題があるという話が出た。しかし、線路を引くこと、交通安くするという事は、鉄道会社や行政が赤字になってしまうので、赤字にならない方法でアクセスを充実させることが大事なのではないかと思う。

具体的な方法として、岐阜市芥見東・南地区でやっている方法がある。ここでは、地域住民の意向や意見を運営に取り入れている。例えば、子供たちが通学する時間にバスが欲しい

から、この時間にバスを多くする。高齢者の人が通院するためにこの時間のバスを増やす。逆に、バスを活発に利用していくために、地域の人イベントを計画していくという形で、地域の人バスの運営に関わっていく。

行政が与えるのではなく、地域の人に関わることによって、繋がりが増えていき、神戸も住みやすくなるのではないかなと思う。

(1班-Aさん)

最後に、各世帯の交流という矢印をつけている。なぜかというと、若者は若者という分け方ではなく家族というか、3世帯を一つの単位として支援したいという思いがある。住むとしても3世帯で住みたい。旅行に行くとしても、コロナも踏まえて、家族単位での旅行を進めている。

家族という単位で、色んなところに行ったり、地域に戻ってきたいなと思うこと、戻ってこれることの交流の意味がある。近所の付き合いは減ってきているという印象がある。携帯の普及で便利になったり色んな要因があるとは思いますが、そこで若者が高齢者にスマホの使い方を教えたり、高齢者が今までの文化を教える。子育ても誰でもできるような交流ができたらいいなと思う。

(事務局)

2班の皆さん、感想や聞きたいことがあればコメントをお願いします。

(2班-Fさん)

3世帯で住みたいというのが、一つの家として考えていて、暮らしのまわりの遊びや福祉、教育などの視点で掘ってあって、面白かった。

(2班-Gさん)

僕たちの班は、観点的に都市部と農村部の話がメインになっていて、ここまでターゲットを絞って誰にどういうアプローチをするかはっきり決めてなかった。そういった視点から神戸の都市部や自然の魅力をどう残していくかが明確になっていて面白いなと思った。

個人的に気になったところが、北区と西区への交通アクセスというところ。交通アクセスを増やすということは手段だと思っていて、いかに地域コミュニティをどういうふうに西区と北区で作っていくのかっていうところが、課題かなと思っている。僕も北区に住んでいるが、あるようでないというところは、現実かなと思っている。交通のアクセスを良くするだけじゃなくて、場所でどういうふうにコミュニティを作っていくのかという所を一緒に何か考えていければ良いと思った。

(2班-Hさん)

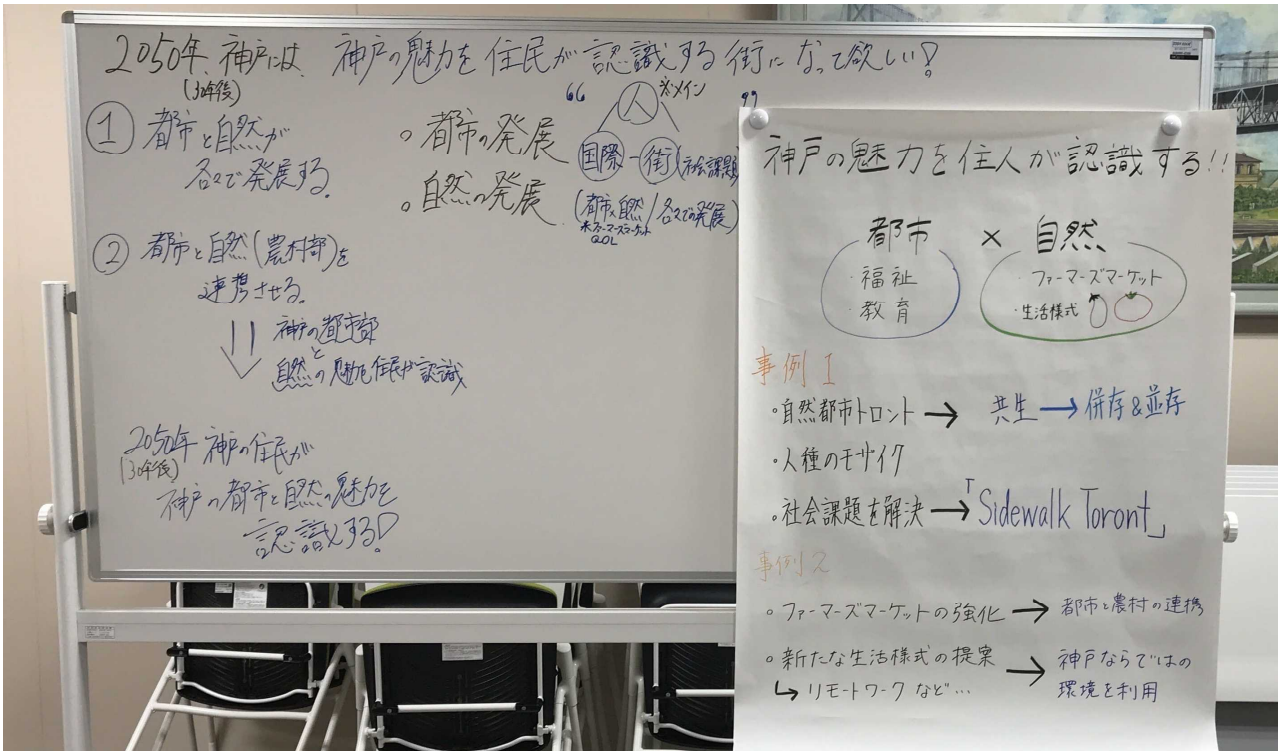
僕たちの班と出ている意見は似ているが、それを3世帯で住みたい町という具体的な目標をちゃんと立てて考えているのはすごいと思った。

(2班-Iさん)

高齢者、若者、子育てに分けて具体例を挙げながら分かりやすくまとめていた。岐阜県の例も、そんな内容があったのかと思ったし、どうすれば取り入れることができるかなと考えることもできた。

【2班】

図4. 発表模造紙+ホワイトボード



(2班-Gさん)

2班は、30年後の2050年の神戸は最終的にどういう状態になって欲しいのかと考えた。結論としては、神戸の住民が、神戸の魅力を認識している町になって欲しいと思った。

神戸の魅力とは何だということ、今回の話にも挙がっていた、神戸の都市部の魅力と自然の魅力をちゃんと認識しているということが、30年後の2050年に実現されて欲しいということが、僕たちの考えとしてある。

具体的なポイントとして、これから30年間かけてどういうふうなアクションがあったらいいか。

一つ目が、都市と自然が各々で発展する。共存というよりも併存ということ。自然は自然で残していく、都市は都市でそれなりに発展していく、各々が良い感じで発展していくということ。

二つ目が、都市と自然（農村部）を連携していきたいというところがある。その2つのアクションをやることによって、最終的には、神戸の都市と自然の魅力を神戸の住民が認識している町に30年後にはなっていてほしいと思う。

今回は、人と国際と町とホワイトボードに書いている。都市の発展として、特に頑張りたいところとして、福祉と教育の部分で発展して欲しいというポイントがある。自然は、ファーマーズマーケットや生活様式という改革をやりたいと思っている。

(2班-Iさん)

まず、都市について、人にフォーカスして考えた結果、福祉と教育を充実させるという考えが出た。神戸を外側から見ることも大事だと思うが、やっぱり住んでいる人自身が神戸に魅力を感じていないと、ずっと住み続けていることはできないと思う。それは持続可能な神戸ではないと思うので、生活の質を高めるという意味でも、福祉サービスを充実させること

や教育をもっと充実させるというという考えが出た。

福祉の具体例としては、明石市の取組が全国でも有名になっている。中学生までの子どもの医療費を無料化したり、里親100%プロジェクトというのがあったり、とても良い取組だと思ったので、模範として神戸も取り組んでいけたらいいと思った。

教育については、例えば、私も小学生のときに、神出自然教育園やハチ高原で自然学校をしたり、農村体験をしたので、そういうのをなくさずに増やして欲しいと思った。逆の都市部の方は農村部の人達を、工場見学などの取組をもっと増やしていけたら都市と自然の共存、併存ができるのかなと思った。

(2班-Hさん)

事例の一つとして挙げたのが、トロントになる。トロントを挙げた理由が、大都市にもかかわらず、日常で自然と触れ合えること。もう一つが、トロントはカナダの中でも、エンターテイメントや金融政治文化などが中心都市で、人種のモザイクと呼ばれるように多種多様な文化の人達がそこに住んでいる。そこが神戸でいうと、北野のようなどころがあるので、似たものを感じたので、トロントをピックアップした。

トロントが、自然と都会との共存を成功させるために、今でもなお解決するために提案された計画が、Sidewalk Trontoという計画案になる。

一つが、ごみ削減のために、ごみの分別をリアルタイムでフィードバックする取組や、都市緑地といった自然を利用したインフラ整備と雨水を管理するシステムを連携させて性質を守る取組である。

もう一つが、物流車両の交通を町の地下に整備したり、歩行者専用レーンや自転車専用レーンなどの速度に合わせたレーンを設けたりすることで、住民が安心して移動できる仕組みづくりである。これは日本でも、今は宅配便や物流トラックが、たくさん事故起こして、渋滞を招いたりすることが多くあり、最近だとウーバーイーツが一つの事例だと考えて、これを解決するには、ぴったりだと考えた。

共生ではなく併存というのは、神戸は、トロントのように、大都市の真ん中に自然があったりするのではなくて、都市と自然がそれぞれ互いに活性化している。そこで、併存ということ考えた。

(2班-Fさん)

都市と農村の連携の部分で、押し出していきたいのが、ファーマーズマーケットである。ファーマーズマーケットとは、農家が一つブースを持って農産物を販売するというもの。

すごく大きなファーマーズマーケットがカリフォルニアにある。それが実現できている理由として、大都市と広い生産地があるということ。神戸でも実現ができるのではないかと考えて、この案を挙げた。

ファーマーズマーケットを開くことで、消費者側は、こんな野菜があったと知って、神戸の新しい魅力認識ができる。また、農村地域の生産者にとっても、売れることでの誇りの強化のようなことができ、都市と農村を連携しつつ、お互いに地域の魅力を認識していくことができるのではないかと考えている。

最後に書いている、新たな生活様式の提案というのはメインではないが、やはりコロナ禍を経て、新しい生活様式がたくさん提案されるようになってきている。神戸は都市もあるし、自然環境もある。色んな神戸ならではの環境を利用して、セカンドハウスやリモートワークをしながら田舎で暮らすなど、色んな生活様式を提案できるモデル地域のような役割を果たすこともできるのではないかと考えている。これらのことで、2050年に神戸の住民が神戸の

都市と自然の魅力を認識するということを目標にした町にできたらいいなと思っている。

(事務局)

それでは、一班のみなさん発表を聞いて感想などがあればコメントをお願いします。

(1班-Eさん)

30年後となると、子供たちが育っていくことがとても大事なので教育という視点はとても大切だと思った。自分は小学校の先生を目指していて、確かに自然と触れ合う機会はどんどん減っているかなと思う。学校が狭くなるというか、開かれていないのもう少し地域や自然と触れ合う機会が増えることは確かに大切だと思う。

(1班-Dさん)

神戸の魅力を全員が認識するというので、私も神戸にずっと住んでいるが、魅力的だとは思いますが、今回みたいに調べてみないと分からなかったことは多くあった。私は都市側に住んでいるので、自然のことだか全然知らなかった。そういう意味で、都市部と自然の連携はすごく大切だと思った。

(1班-Aさん)

二つの発表を比べて思ったのは、どちらも僕たち若者自身が神戸の魅力を分かりきっていないということが同じ課題で出ていると思った。そこを生かしていかないといけない。

その解決策として事例を挙げていたが、神戸の他にも大阪や京都など大きな都市があるからこそ、同じようなことをしても、力負けしちゃう部分があると思う。他にはないものを取り入れていくという姿勢が、これから必要だと思った。

(1班-Bさん)

都市と自然の連携という部分で、ファーマーズマーケットの強化で、地産地消を強化していくのは良いと思った。せっかく野菜を育てている土地も多くあって、それを売れる都市部もあるので、地産地消は良いなと思った。

(1班-Cさん)

トロントの例で、速度に分けたレーンを作るというのは良いと思った。今でも、自転車とかの規制も厳しくなっていく中で、神戸や三宮も交通量が多いので、具体案が出ることは、これから30年後考えたときに、繋がるものだと感じた。素敵な町になるという想像ができたので良かったなと思った。

(事務局)

皆さん、ありがとうございます。それでは、座長から講評をお願いします。

(座長)

全体的にとっても良かった。

1班について、キーワードとしてはアクセシビリティ。北区や西区との距離感は、社会人グループに検討してもらっているときにもよく出てくる話題になる。やっぱりこの距離感をどう埋めていくのかというのは、とても課題であるという点を再確認できて良かった。特に、この同じことを二つの班がやっていて、都市と自然の関わりや魅力を考えてもらう内容だった。1班はライフスタイルのあり方に着目した。とてもよくまとまっている内容だと思った。

質問としては、高齢者にとってのユニバーサルデザインという言葉がキーワードに出てとても良かった。これは、ビジョンを考えていく上で入ってくるだろうと思う。高齢者にとってのユニバーサルデザインは皆さんに考えてもらっている。しかし、皆さん自身にとって、つまり若者というか大学生にとってのユニバーサルデザインは何かないか。逆に言うと、今こういうところが私たちにとって住みづらい。或いは、若者にとってのユニバーサルデザインを考えると、こういう町のあり方があるのではないかがあれば教えて欲しい。

多分、高齢者は色々住みやすくない状態があって、こうしたら住みやすくなるというのがある。しかし、大学生にとって住みやすい、こういうところが住みやすくないはないか。

(1班-Eさん)

もしかしたら、少しずれるかもしれない。住みにくいと感じている点は、大学には友達もいるが、学校以外の友達が少ない。地域の中で関わりが少ないから、そこをデザインしてあげたらいいのではないかなと思う。物ではなくて、イベントや交流する場を提供すること。そうすると、大人になったときにも、その繋がりを基に子育てをできると思う。そういうのがちょっと暮らしにくい。人との繋がりが学校とかで留まってしまって、地域と繋がってない感じがする。

(座長)

それが、究極的にいくと、多分、世代間の関わりに誘導していくのかなと思う。

皆さんは、奥ゆかしいかもしれない。俺たちにとって住みづらいとは言いにくいと思うが、自分たちにとって今神戸のここがあんまり良くなって、これからこうなって欲しいということも考えてもらったらよかったかなと思う。

ライフスタイルというあり方に着目して、30年後の世界を考える、町を考えるという問題の捉え方というのが、私にとっても勉強になった。

2班について、同じテーマでも全然違って面白かった。具体的に都市と自然をどう関わらせるのか、ミックスさせていくのかということに着目していた。1班とはまた違った魅力があって、こちらもとても勉強になった。地産地消という言葉もあったが、神戸の魅力である近郊農業との関わりでファーマーズマーケット中心に、地産地消ということ。これも社会人グループにディスカッションしてもらったときにも、同じような課題が出てきて同じような提案があった。こちらの方がより具体性があった気もして、面白かった。

私からの質問としては、30年後の町の姿として、神戸の魅力を住んでいる人が認識する街になって欲しいということは、今はちょっと違うのか。住んでいる人はあんまり神戸の魅力を認識してなさそうなのか。その辺について教えてもらいたい。

(2班-Gさん)

僕は北区に住んでいて、22年神戸に住んでいる。神戸ブランド、神戸の魅力を聞かれたときに、具体的なものが挙がってきにくい。これが強みと言えるものが、多分自然と都市の近さ、それぞれがちゃんと際立っているところしか言えないなと思っている。その具体性が弱いと結構感じている。

大学には他府県から来ている人はいるが、その人たちも山や都市部が近いと言うだけ。外から来た人の認識も、神戸に住んでいる人の認識もそこで止まっていて、そこから具体的な魅力を僕たちが語れないということは結構あると思う。そこを再認識するために、自然学校の取組みや工場見学、ファーマーズマーケットで、実際に肌で感じる神戸の魅力の機会を増やすということが大事なのではないかなと思っている。

(座長)

神戸らしさをまた見つけていくようなこと。確かに、奥ゆかしいといえば奥ゆかしいが、神戸の具体的な良さとは何か。ブランディングという点で、何でもあるように思えるし、何でもいいところのような気がする。何かと言われたときに、注目するものがないというのは、確かにその通りかなと思う。神戸らしさ、神戸的な良さというものを見つけていくようなことが、多分ビジョンに含まれるといいのかなと思った。

いずれにしても、両方ともそうだが、具体的な産業や工学的な側面、或いはライフスタイル的な側面が両方あるが、デザイン的な視点を入れていかなければいけないということは私にとって気づきだった。

都市のあるべき姿ということを考えるときに、どうデザインしていくのか。そのとき、1班のようなライフスタイル的な暮らし、住む、生きていくという側面。もう片方には、具体的にどういうアクションって関わらせていく、どういうきっかけを提供していくのという二つの側面から、2つの班がそれぞれのポイントに着目してくれて良かったと思った。

(別紙)

○座長

氏名	所属・役職
星 敦士	甲南大学文学部教授（新神戸地域ビジョン検討委員会委員長）

○出席者

大学・学部
神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科
神戸親和女子大学 発達教育学部福祉臨床学科
神戸大学 農学部食料環境システム学科
神戸常盤大学 保健科学部看護学科
甲南女子大学 人間科学部生活環境学科
甲南大学 文学部社会学科
兵庫県立大学 経営学部組織経営学科
流通科学大学 人間社会学部観光学科
その他、神戸市内1大学

(五十音順)

○県民センター（事務局）

氏名	所属・役職
今後 元彦	神戸県民センター副センター長兼県民交流室長
柳田 順一	神戸県民センター県民交流室次長
前野 芳範	神戸県民センター県民交流室長補佐兼総務防災課長
西川 理	神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当班長
田原 由加里	神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当職員